



1978年5月号



# 会報

## 墨東ゴム工業会

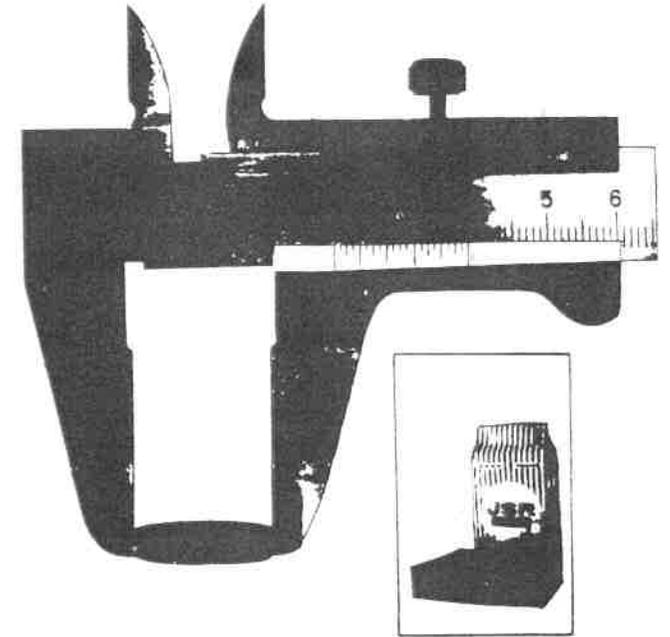
NO.62

事務局 東京都墨田区墨田町2丁目35番6号 長瀬ゴム内 TEL (614) 3501

### JSRのNBRからバラツキのない耐油製品が出来ます

JSRでは新しい生産方式《連続重合方式》によってNBRの生産をはじめました。従来のバッチ方式と違い、連続重合方式で作られたNBRは品質のバラツキがありませんので、特に規格のきびしい各種工業用品に安心しておつかいいただけます。

- N220S
- N220SH
- N230SH
- N230S
- N230SL
- N235S
- N240S



JSR 日本合成ゴム株式会社 本社 東京都中央区京橋1の1 TEL (561) 8601  
東京支店 東京都中央区京橋1の1 TEL (562) 3351

### 経済的で加工性の優れた 旭化成の溶液重合ポリマー

ジエン ……ポリブタジエン	タフテン ……溶液重合SBR
ジエン 35R ジエン 35A	タフテン1,000R タフテン1,000A
ジエン 55R ジエン 55A	タフテン2,000R タフテン2,000A
ジエン 500 (ハイアロマテック系50部)	タフテン2,003
ジエン 531 (ハイアロマテック系37.5部)	タフテン4,003
	タフテン1,530 (ハイアロマテック系37.5部)
	タフテン1,533 (ハイアロマテック系37.5部)
	タフテン2,630 (ナツチン系37.5部)

### 旭化成工業株式会社

合成ゴム販売部 千代田区有楽町(日比谷三井ビル) TEL 502-7111  
591-6961(夜間)  
合成ゴム加工研究所 川崎市夜光1-3-2 TEL 044-28-7551

長瀬泰吉翁を偲ぶ



**N-ONE**  
TENNIS BALL  
AUTHORIZED BY JAPAN  
SOFT TENNIS ASSOCIATION



**エヌワン**

日本軟式庭球連盟公認球  
エヌワンスタンダード  
セルフテニス  
エヌワン・ミニ



長瀬ゴム工業株式会社



老防の精工

使いやすい老化防止剤!



オゾンEX ベレット



ノンフレックスPX ベレット



ノンフレックスWSP パウダー

**精工化学株式会社**

東京営業所 105 東京都千代田神田区神田2-1 神田通興ビル 電話(03)254-2771  
大阪営業所 541 大阪市東区道徳町1-3 花房ビル 電話(06)231-4361

老防の精工





## 中小企業発展への功績大きい

松本重男

謹んで故長瀬泰吉殿のご霊前にゴム業会を代表して惜別の辞を申し上げます。  
ご近親皆様方のお手厚いご看護のもとに天寿を全うせられたとは申せ、業界としては得難い先輩の一人を失いまして、私共にとってはまことに残念であり、哀惜の念を禁し得ません。

貴君は大正の末期、故郷の宮崎から外地に出られ、ご商売の道に種々ご苦勞を重ねられた後、昭和のはじめに内地に戻られて始めてゴム製品の販売を手掛けられたのが機縁となつて、昭和九年現在の会社の前身である長瀬ゴム製作所をご創業になつたと承わります。いらい戦時中および戦後を通じて変遷の多かつた業界において、ひたすら運動用ボールの分野を寄つて事業をつづけられ、そのご事業を通じて、スポーツ界に幾多の貢献をせられました。

貴君は気骨に富み剛直であつた反面苦勞人で人情に厚く、よく人の面倒をみられたことは周知のとおりであります。

その現われとして、墨東地区においてはことに墨東ゴム工業会を組織して地元業界のために力をつくされ、また日本ゴム工業会においては常任理事の傍は中小企業対策懇談会の設置とともに請われて幹事となり、全国各地の中小企業者のために奔走されました。

また東部ゴム工業会においては、副会長として、東京ゴム健康保険組合の創設と事後の

## 長瀬前会長と終戦前後

斉藤貞之助

運営に尽力されるなど、中小企業の互助発展のために尽されたご功績はまことに大きなものがあります。  
ここにご遺業の一端をしのび、ご生前私共業界に賜わつた数々のご教示とご厚情に対しまして心から感謝の念を捧げますとともに、御霊が安らかに眠りまことをお祈り申し上げて告別の辞といたします。

昭和五十二年十一月十九日

(日本ゴム工業副会長  
東部ゴム工業会々長)

読経の中で最後の『お別れ』が済んで、柩が焼却室に押入れられ、鉄の扉が無気味な音を立て、閉された。正服正帽の係員が扉に鍵をかけ正帽を取って馬鹿丁寧に最敬礼をして立去つた。会葬者一同に名々に合掌し、係の者の案内で三々五々休憩室に移動し始めた。私も皆さんの後に付いて表に出た。

そして振り返って煙突を見上げると薄い白い煙が斜に流れて消えた。暫くすると又煙が立昇つた。その煙が右手を軽く上げて微笑んでいる長瀬さんの姿であつた。そして消えた。又煙突から煙が上がった。今度は先刻とは少し姿の変わった長瀬さんの姿であつた。『さようなら』そういつている様であつた。

想えば永いお付合でした。私は心の中で『長瀬さん、永い間お世話様になりました。どうかお元氣でお旅立下さい』と祈つた。

それは――

昭和五十二年十月廿九日、四ッ木火葬場に於ける密葬の日の午後のことであった。話は遡りますが、昭和廿年三月十日の大空襲に依って江東方面の全地域が、そして四月に又々追打ちをかける様に、この二回の絨緞爆撃によって、東京の大部分が焼失した。

墨田堤に立って本所、深川方面を眺めても建物らしい建物は一つもなかった。ところどころに質屋の葺が黒く焼けただれて残っているのが見えるだけで、遠く州崎砂町方面迄見通してあった。その項東京湾の海水が見えるなどと言われた程に焼き払われた。

幸い隅田の一角は焼け残り、長瀬さんの住居と工場も焼け残った。然しこの二回の大空襲によって、東京の機能は殆んどマヒし、交通は遮断され軍需工場等も虚脱状態に陥った。その項から一部識者は敗戦の必至を悟った。勿論長瀬さんもその一人であった。長瀬さんにはそうしたニュース源があった。親戚の方が呉で海軍の御用商人であったので、単にニュースばかりでなしに物資の面でも大分助けられて居った様でした。後述するが我々もその為に大変その恩恵に浴したものであった。

先だって取壊された事務所前の平家の建物が終戦前後に住んで居られた長瀬さんの住居でした。戦争が始まって間もなく、スポーツ用品等に対する生ゴムの配給は一切停止された。従って、工場は休業状態で長瀬さんも毎日悶々の生活を送って居られた。

同病相哀れむというか、長瀬さんの人柄というか、こうした長瀬さんの処には生ゴムの配給がなくなると、すっかり用事のなくなったゴム組合の運動用品部会の職員とか、運動具店の番頭とか、商工省（今の通産省）のうだつの上らない下っ端役人。焼出されて用事の無くなった連中等がよく集った。

或は逆に長瀬さんが呼び寄せたのかも知れなかった。私も近所付合いでよくこの仲間と

同席することが多かった。

兎角メダカは群れたがると言う言葉があるが、こゝに群れ集まった連中はメダカどころか一癖も二癖もある骨っばい人達であった。

この連中は長瀬ゴムの創立に重大な影響があるので一寸詳しく説明すると、金丸力。ゴム統制会の運動用品部会か何かに居った方で大酒豪でもあった。九州出身で長瀬さんとは大変馬が合っていた様だった。後に長瀬ゴムの専務になった人。この人の奥さんは脂屋の娘さんで、後に大正通りに『大正鮎』の店を出し大変繁盛したが、何か家庭事情が複雑で、金丸氏の晩年は荒れた生活が続き、一緒に飲むと何時でも離婚届を持っていて、それをちらつかせた。そして深酒がたゝって肝臓を悪くして他界した。

小坂力。名古屋の運動具店の番頭をしていたが、戦争でこれも暇になり上京した男で、中学時代野球の選手で、甲子園に出たとかでよくそれを得意に話していた。長瀬ゴム時代は、社長秘書になり、専ら統制品以外の製品（結局は闇のもの）を担当し、戦後急激にブームになった軟式野球ボールを一手に握り、運動具店が競争で彼に秋波を送り、ボールの獲得に狂奔して居ったので、彼にも相当の余徳があったのではあるまいか。そのかわり彼は、若し長瀬ゴムが統制違反で摘発される様なことがあれば自分が全責任を取って会社には迷惑は絶対にかけないと豪語していた。その後長瀬ゴムを退社し、独立し小坂スポーツ商會を創立し現在に至って居るが、本人は昨年他界した。

私は三年前に水神様を散歩している彼に会ったが、ステッキをついて、のろりのろりと歩いていたが足がよたよたって往年の元氣さは無かった。然し元氣になって野球をやりたいといっていた。

右川洪輔。ご存知右川ゴム前社長。三月十日の大空襲で焼失し、焼失後は防空ごうに独りで生活して居ったが、早く家族を疎開させて居ったので、根がのん気なので気楽な生活を

送っていたが、田舎との半々位の生活の様であった。後に長瀬ゴムの工場長となり、長瀬さんとは切っても切れない仲となった。

その他長瀬ゴムで働いて居られた五木田老人。小林君。それに私。私の後輩の市川君等。前に戻りますが東京が焼野原となり、前述のようなメンバーが毎日のように焼け残った長瀬さんのあの平家の八畳の部屋に集まっては喧々諤々の議論を斗わしたり、閑酒を飲んでは話に花が咲いた。

誰がどう都合したのか酒やビールがよく集まった。この調達は市川という男が担当した。あとで聞くと戦中だというのにゴム長とか地下足袋等が邪の道は蛇でそうした禁製品を手してはそれと交換したものだ。然しこの市川という男も世の中が正常になりかゝった頃に隅田川に投身自殺をしてみた。

その頃長瀬さんが、『今日は特別上等なものをご馳走しよう』といってサントリーの角瓶を取り出して来て飲ませてくれた。

その後もそんなことが再三あった。当時はもうサントリーの角瓶などは我々のような一般庶民の口には入らなかつた頃である。この入手先が前述の長瀬さんの呉の親戚からの到来品であった。それには、将官用というレッテルが貼ってあったように記憶する。

サントリーも今ののように種類は多くなかつた。丸瓶の白ラベルに赤ラベル、それに角瓶が二種類位だった。兎に角、角瓶は美味だった。

その頃から長瀬さんの頭の中には戦後の設計図がポツポツかたまつて来たようであった。そしてアルコールが入ると『中小企業も今迄のような親父独善のワンマン経営法では成立たない。やっぱり衆智を集めて経営の発展を計らなければならぬし、利潤の分配等もガラス張りではなくてはならない。』

それは社長が幹部社員に訓辞する様でもあった。そして最後は戦争が済んだら諸君一緒

にやろうというのが結びであった。

焼け残ったあの平家の八畳の座敷で、新会社の組織が出来上ってゆくようでもあった。

大げさな言い方をすればそんな毎日が終戦の日まで続いた。

そして八月十五日、の終戦の日を迎える訳だがその日は町会の者が全員水神宮に集まつて玉音放送を聴くことになって居った。

この放送が敗戦宣言であることは一般識者は殆んど知っていた。勿論長瀬さんもご存知の筈である。丁度その時水神宮に出掛ける長瀬さんと往來でバッタリ会った。長瀬さんは微笑を浮かべ、いよいよ来る時が来たネと、言葉には出さなかつたがお互に相通するものがあった。そのうれしそうな顔が今もハッキリと想い浮ぶ。長瀬さんも五十前の元気いっばいの若さであった。

私は会社の事務所で放送を聞き、それから私の敗戦処理が始つたのだ。四百名近く居った徴用工、女子学徒、それに工員等の処理と製品の処分等々。陸海軍の監督工場としての有り方について早速軍に連絡を取らなければならなかつた。

その時の軍のろうばい振りなど書き始めるときりがないので省略する。そんな訳で私は暫く長瀬さんのグループとも会う機会がなかつた。ある日お呼びがかゝって行ってみると、すっかり会社創立の手筈が整って例のメンバーが集まっていた。長瀬さんも無一文だった。結局は出資の問題だった。皆さんに役員になってもらいたかったので、幾らでも出資してもらいたいとの話だった。それは当然の話だが誰も大金を持っているようなメンバーではなかつた。

然し五万か十万、或は二十万位出資した者もいたかも知れないが誰がいくら出資したか確かでない。私も五万円位出資した様に記憶する。

そしてどういいうわけか

高千穂産業株式会社という名称で発足した。出資者も呉の親戚の方などが加わった様でしたが、そうしたことも確かではなかった。私は単なる出資社員を希望したが、監査役とかにさせられ、何回か月給をもらった記憶がある。

この名称でどの位続いたのか、間もなく長瀬ゴム工業株式会社に組織替えになり、金丸専務、小坂取締役社長秘書、右川工場長等の顔ぶれて再発足した。

そして順風に帆を上げてすべり出して間もなく永いこと苦勞を共にしてきた愛妻の死に遭遇したのである。人生は何と無情であるうか。物資もまだ不足であった。葬儀の世話やきは専ら右川洪輔さんと小林君が骨をおった。新宿に住んでいた私の処に右川さんがポロ自転車にリヤカーを付けて炭と野菜を取りに来られたことが昨日のこのように想い出される。(古い話なので記憶違いもあるかと思えます。間違いがありましたらご容赦下さい)

(墨東ゴム工業会副会長)

## 故長瀬前会長を称える

菅 谷 満 良

三月十二日にお見舞して以来ご無沙汰しており、病状が最近特にお悪いという事を聞いて、昨秋十月二十六日、本所の同愛会記念病院に長瀬会長をお見舞した。斉藤副会長(中川ゴム)と右川氏、富岡氏、田中氏、遠藤氏、私と六人で午後二時頃病院に着いた。面会時間は三時からという表示があったが、受付で聞くと長瀬さんならすぐに通ってもよいということ、さすがに会長の威光か、或は病状が急なためかと推論しながらドアをノック

した。病床にはご息女の和子さんが付き添っておられた。

呼吸も荒く、目はあらゆる方を見つめられていたが、私はいきなり「しばらくでございませう」とご挨拶してしまった。雰囲気から察してもうお判りにならないのではないかと思いつながらついそんな言葉が出てしまった。

和子さんのお話ではもう殆んど意識はなく、長く付き添われている方だけには、判るような素振りがかすかに合槌を打つ位だという事だった。斉藤副会長が会長の手を握って「ご気嫌よう」と涙ぐんでいた。勿論何もお答はなかったが視線を動かされて副会長の方を見られたのが印象に残っている。

翌朝桑沢さんからお電話を頂き、午前五時十分眠るようにお亡くなりになったという計報を聞いた時、前日お見舞いした時の情景が思い出され、大変悲しい事だがご他界の前にお目にかゝられた事だけが慰めだった。

昭和三十七年二月二十三日、墨東ゴム工業会の発起人会が向島三ともに於て開かれ、私は父の代理として出席させて頂いた。私が長瀬前会長とお会いしたのはこの時が初めてだった。父は長瀬前会長と古くからお付き合いがあり、その頃向島防犯協会の副会長として長瀬前会長の下でお手伝いをさせて頂き、地域社会活動の上でもご懇意にさせて頂いていたようだが、私としては長瀬前会長とお会いするのは初めてだった。父より八つも年上の前会長は大変近づき難い威厳を持っていた。地域社会活動に熱心だった父は多忙だったので業界の交際の殆んどを私に任せていた。然し長瀬前会長との関係で墨東ゴム工業会には大変力を入れていた。そんな関係と東京ゴムの堀内清一社長や右川ゴムの右川洪輔社長のお口添えもあった事と想いが、堀内清一社長と並んで父が墨東ゴム工業会の初代副会長という身分不相応のお役目を頂いた事も、長瀬前会長が父に示されたお心遣いであつたと思う。

父はそれから昭和三十九年六月に満六十歳で急逝するまでの二年五ヶ月の間、長瀬前会長の下で副会長として墨東ゴム工業会の創生期の仕事に参画させて頂いた。大変短い期間であったが父が長瀬前会長から頂いたご厚誼は私にとっても言葉に尽せない感謝の気持ちでいっぱいである。

父亡き後、長瀬前会長や故斉藤正勝副会長（東京ゴム）から私に副会長を引き継ぐようお誘いもあったが、当時三十七才で未だ若輩でもあり、父の急逝による混乱から会社を守る事が重大であったのでお断りした。余談になるがその時父がしていた東部ゴム工業会の監事という役も世襲で引き継ぐようお話があったが、これもお断りし、一切の公職から離れて社業に専念することにした。

父の死後しばらくは後処理や社長就任による全く新しい仕事のために墨東ゴム工業会への出席も思うに任せなかったが、私のご子息の光雄君と親しかったのでお誘いして入会して頂いた大先輩の富岡調帯社長富岡五郎氏が翌年副会長になられたので私も大変嬉しく思った。

前述したように私にとって長瀬前会長は年令の差もあって大変近寄り難い人であった。私自身がどちらかというところと引込み思案な性格もあったせいも、前会長と親しくお話出来る事は余りなかった。その頃の墨東ゴム工業会での私の交際は主として会報編輯委員会を中心とした若手会員の集りであり、会の主流としての活動ではなかったが充分に会長の恩愛を感じていた。思えばその頃長瀬前会長は七十才に近く人生も頂点を越されていた筈であるが、私にはまだ人生の盛りを誇る壮年のように思えた。各種の会合や春秋の宴に見られる会長のお話には人を圧する気魄があった。非凡な経営哲学があった。或る人は大変庶民的な親しみ深い人柄だったといわれるが、私には偉大さに対する尊敬や恐れのためか親しいという感情は余り湧かず、只偉大な人だったという印象だけが残っている。

もう一つ私が前会長のご功績から勇気づけられている事は、前会長の本当のご成功は五十代からであったという事である。終戦の年昭和二十年には前会長は四十九才であった筈である。私は今満五十才なので終戦の翌年の会長と同じ年である。勿論現在のような低成長の時代に終戦直後の特殊事情や高度成長期のかつての夢は望めないにしても、長瀬前会長がかつて残されたご功績の多くは五十才以降に作られたという事実は私に大きな夢と勇気を与えてくれた。

戦争という長く暗いトンネルを抜け出た時、前会長は永く心に秘めていた情熱を野球ボールにかけて果敢に仕事と取り組んでいった。それはそろそろ定年におびえ老後の設計を考え始める年頃からである。そして数年を経ずして日本のゴム業界においても、スポーツ用品業界においても、地域社会においても押しても押されもせぬ地歩を築かれた。そしてまたたく間に中央の政界や財界との強いつながりを持たれる等、全く素晴らしい快進撃であった。この後半生の輝かしいご功績は、勿論前半生に積みあげられた体験と信用なくしては実現し得なかったと思うが、その前半生のエネルギーの蓄積を一挙に爆発させる事が出来たのはいつまでも若々しい情熱と実行力があってはなからうか。私は長瀬前会長の情熱と実行力の偉大なる故に、彼を畏れ、彼を尊敬し、又勇気づけられて来たのである。

その長瀬前会長も今はなく、現実のお教えを乞う道はないが、少くとも前会長が残された気概とご功績は墨東ゴム工業会の歴史に永久に留って、我々を勇気づけ、見守ってくれる事であらう

（墨東ゴム工業会副会長）

## 長瀬前会長のこと

右川清夫

長瀬泰吉氏が亡くなられて早くも半年にならんとしている。長瀬さんと父の関係は、色々な意味で現在の右川ゴム及び右川ファミリーに少なからぬ影響を持つものである。

そして一番大事な事は長瀬さんを取り巻く多くの方々が、長瀬さんの人柄に惚れ込んで共に仕事をし、共に会をつくり、共に遊び、共に充実せる人生を過すことが出来た事だ。長瀬さんと右川の間柄は私の祖父、右川慶治の時代からであると聞く。戦前の右川ゴムは、ボールをはじめ、長靴とか色々な製品に手を広げ、上海に工場をもって従業員を技術指導のため派遣していた。

昭和十年頃から十七年頃迄長瀬さんは右川ゴムで五木田さんや父と一緒にテニスボールの研究に打ち込んで居られたということを右川ゴムの古い従業員であり又戦後長瀬ゴムで野球ボールの生産に従事していた人に聞いている。

そして戦災、三月十日の空襲は右川ゴムの煙突を一本残したきりとなった。工場設備の焼け残った戦後の長瀬ゴムの工場長として迎えられた父は、長瀬ゴムの寮に、家族と一緒にお世話になるようになった。当時私は次男と二人、母の里である信州に疎開をして居り、三男と二人の妹が、長瀬ゴムの寮で大きくなった。現在の長瀬ゴム本社の場所であり、当時営業をやっておられた小坂さん、平井さん、石川さん一家もそこに住んでおられた。

私が長瀬ゴムとつながりを持ったのは、疎開先の信州から東京へ引揚げて来た昭和二十

一年頃である。その頃には右川の家も堤通りに何とか建てて住めるようになっていた。

長瀬ゴムに勤めて居られた植村さんの紹介で、私は学習院中等科を受ける事になった。丁度隅田小学校六年の時である。当時学習院等という学校は、普通の人では入れないという先入観があって、世間の人から特別視されていたものである。しかし丁度その年から今迄宮内庁の管轄下にあったのが私立となり、試験を受けて合格すれば誰でも入れる学校となったのである。

幸い長瀬の植村さんは学習院の出身者であり、植村元中將のご子息さんであったときいている。その植村さんの紹介で、中等科を受けたのが昭和二十二年で、倍率は二位位でなんと合格した。

その年の夏休みは、私は山登りをする為の小使いを得るため長瀬ゴムの仕上げ工程でボールの箱詰めをアルバイトした。これが長瀬ゴムとのつながりを持った最初である。

現在の社長夫人の和子さんも一緒に手伝いに来ておられ、楽しい夏休みだったことを覚えてる。現在大阪に居られる川添さんが新入社員として来られた頃である。

父は大分迷ったようだが、母や母の兄の意見で右川ゴムの煙突からもう一度煙を出したいという念願で、父は昭和二十七年頃、長瀬ゴムをやめて、堤通りの元の敷地に右川ゴムを設立した。

当初、ゴムマリ専門という事で手帖りの製品を、そして昭和二十九年頃から押出で貼るようになりなんとか一本立出来るようになったのも長瀬さんのおかげであろう。

何しろ長瀬ゴムには色々な人材が居られた。戦後のマルケンの名を高からしめた最大の理由はここにあると思う。それはとりも直さず長瀬さんの人柄に惚れ込んだ人々の和の力が結集されたものであり、人間の大きさがその後の長瀬さんの政治力、行動力、バイタリティを生む原動力となっていたのである。

若輩の私には長瀬前会長を語る資格などさらさらないが、私の母や長瀬ゴムとつながりのある古い人達から聞く長瀬さんの素顔は戦時中の練り工場から一代であれまでの企業に発展され、日本のゴム工業界の枢軸となり勲五等瑞宝賞まで受けられた底力は早くから奥さんに先立たれた淋しさを仕事に打ち込まれた賜物と拝察されると言ったら言いすぎであろうか。

私共墨東ゴム工業会を創立された目的は、日本のゴム企業の発祥の地、墨田区を中心とする中小ゴム企業の福祉と発展を願って親睦と情報交換をテーマに毎月一回、定例昼食会を柱として、雑誌の発刊、技術講演会等の実施だった。日の出ワシの菅谷さん、東京ゴムの斉藤さん、富岡調帯の富岡さん等といつも連絡をとって私の父等は真っ先に庶務部を受けもたされ会の結集に情熱を燃やしていた。

そして長瀬さんが、我々に常にいつておられた事は、自分の企業は自分で守るという事であり常に特色ある製品の開発に努力すべきであるという事である。

又中小企業は横の連繫を密にし、内外の力に対する自衛手段を講じ、金融、税制など政府への要望を通すための団結が必要である。

墨東ゴム工業会としても、今一度周囲をよくみて資本自由化の名のもとに受けるであろう被害を未然に防止しなければなるまい。

一九七三年三月号の墨東ゴム会報に、時局と中小企業という座談会の記事がのっている。その中で長瀬さんは次のように言っておられる。

私は常に中小企業は大企業のやらないようなもので採算の合うものを見つけて仕事をやりなさいといっているが、私の場合、自分のところでしかできないものを作って特長を出している。その中には特許製品も多いが、個性的な商品をつくるということは企業の強みでもあり、金融面を円滑にする一つの手段ともなっている。

## 長瀬前会長追悼

富岡光雄

環境変化の激しい今日、経営者は目いっぱい頭を使わねば競争に打ち勝つ事は出来ない。それが嫌なら大企業の系列に入るといいうのも一つの生き方だろう。”

長瀬前会長のこれらの語録は我々会員の肝に銘ずべきであらう。

(墨東ゴム工業会庶務部長)

謹んで長瀬泰吉会長の霊に心から哀悼の意を表し、生前墨東ゴム工業会に尽力なされ、今日の墨東ゴム工業会の基礎を作られた努力に対し心から感謝するものであります。

今日墨東ゴム工業会は全国でも稀に見るよく纏った会であります。その秘密は長瀬前会長の秀れた企画力と決断力に他ならないのであります。

昭和四十六年の暮、ドルショックで深刻な状態がゴム工業界にもいよいよ表面化して来た頃、墨東ゴム工業会の三木会の席に会員を集めて、長瀬前会長は自動車タイヤ業会の現状と将来の見通しから、最も甚大な影響を受けた履物業界の情勢に至るまで要領よく、核心を衝いた問題点を取りあげて報告したのであります。その模様をゴム時報四十七年版は次のように伝えている。

それはまるで侍大将たちを集めて、天下の動きを話してきかせる戦国の武将の面影があった。茲父のように柔和な相貌や、淡々と話す口調はもの静かであったが、どんな重大な事態にも泰山の如く動じない強固な信念と気迫がその言葉のうちにも、態度のうちにも感じられる。

参集した三十数名の社長達は水を打ったように静粛に、しかも緊張して長瀬前会長の言葉に聞き入っていた。「この人の言うことを聞いていれば、どんな困った事態がこよとも大丈夫だ」という信頼感が皆の心を強く結んでいる様だった。我々は雑草のように強く生き抜く力を持っているんだ。と心の中でつぶやいている様であった。長瀬前会長の指導に従って事業をやっておれば間違いないと彼らは信じているのである。彼らも又、一国一城の主である。それが敬慕する親に対するように長瀬前会長の元を集ってくるのであると。

長瀬前会長は明治二十九年一月一日、宮崎県延岡に近い東臼杵郡北浦に生まれ、三年間の軍籍後大正三年暮、単身青島に渡る。「三日間飯も食わず、水ばかり飲んでいたが、この時悟りました。人間気持ちさえしっかりしておれば三日や四日食わなくても大丈夫だということが」と。青年長瀬さんは超人的に頑張った時期です。ようやく山東畜産会社という所に就職した青年長瀬さんは、シナ語学校の夜学へ一年間通う。二十七才の時念願の貿易商として独立し、昭和二年の春、九年間の大陸生活に終りを告げ、戦時体制へ向いつゝある日本に帰る。若き日の長瀬さんにこの様な物語があった事を知る人ぞ知るであります。「私は努力もしたが運もよかった。することなすことすべてがうまくいった」と長瀬さんは述懐された。事に臨んで疾風迅雷、果敢な実行力、天才とも言うべき頭脳のひらめきが適切な企画を立てて長瀬さんの前途を切り開いたのでした。しかし乍ら昭和二十年十一月苦業を共にされた禄夫人が戦争中の過労がもとで急逝され、悲しみ打ちひしがれた長瀬さんは、焼野原となった工場跡に立ちすくんでいつまでも夫人の名前を呼びつづけたという事です。

工場の再建には、右川ゴムの故人となられた右川洪輔氏を工場長に迎えて着手、戦後の虚脱した人の心に明るい希望の白球がふき込み、高く飛ぶようになった。

墨東ゴム工業会設立当初と尽力戴いたヒノデワシの菅谷前社長、右川ゴムの右川前社長、

大川ゴムの新発田前社長、東京ゴムの斉藤取締役、堀内社長、故人になられ今、長瀬前会長の悲報に痛恨の限りであります。

長瀬前会長のご冥福を祈り、新会長長瀬二郎氏を中心にその強固な意志を継承して墨東ゴム工業会の輝かしい発展に尽力する事をお誓い申し上げて筆を擱きます。

(墨東ゴム工業会常任理事)



## 偉大な功労者

佐久間 大吉

スポーツ界に多大のご功績を残して逝去されました長瀬さんに「永い間ほんとうにご苦勞様でした。安らかにご昇天下さい」と申し上げるより言葉がありません。特に軟式庭球に対しては、ご自分の会社がポールメーカーだったことに関係なくその振興に限りない情熱を示されました。

殊に女子の軟式庭球が今日の隆盛を来し、技術向上発展の第一の功勞者を挙げればそれは長瀬さんであると万人が認めることでしょう。昭和三十一年四月に日比谷公園コートで全日本女子選抜軟式庭球大会を企画創設し、本年度二十三回を迎え、全国に多数の女子名選手を育成し、又会社の女子選手を全日本選手権皇后杯をはじめ、幾多の教え切れない輝かしい戦績をたてた多くの選手を輩出しました。そして大会には必ず熱心に観戦して、一喜一憂した姿を思い出されます。

第二十回大会を記念して岸記念体育館で曾て出場した全国のOB女子選手を招待して前夜祭のセレモニーのあった時、OB女子選手に囲まれて感謝と祝福を受けた喜びのお顔ははっきり

と覚えています。

私は数年前、同じ取引銀行の役員会が熱海で催された時同道し、その旅館に泊らず近くにある来の宮の会社の別荘に案内され、二人で夜おそくまで軟式庭球の将来や現況等を語り合った時、その立派な抱負によい勉強になったことがあります。

人物論としての長瀬前会長は、私の最も尊敬する一人として指導されたことが多くありました。又立志伝中の人でもありません。宮崎県の北浦村の漁村の次男としてお生れになり、若い頃満州へ渡り、そして東京にて現在の地位を得られるまで、実に苦勞の連続であったそうです。その中では亡き禄夫人の内助の功が多かったことと思いますが、昭和二十年十一月一日、終戦の年に他界されてから毎月命日の一日にはどんなことがあっても一回もかゝらず亀戸の竜眼寺に墓参を続けていたことは有名な話です。又誠に家庭的で、現在の社長夫人、和子さんは一人娘で大変可愛がられ、何度か生活に不自由であるから後添えをという話をことわり、亡き夫人とご息女のことを思って不自由な生活を数十年過ぎたことはよくご性格を物語っていることと思います。

長瀬前会長の今日あったことは、忍耐強く工夫のある努力をするとの一語につきると思います。曾て戦前手遅れの盲腸で医師から死の宣告を受けたが、自分は絶対死なないと気力と我慢強さで頑張り続け、奇跡の一命をとり止めたことがあったそう

です。

又人の面倒を見ることを一つの身上として、私の知っている範囲でも相当の有名人から部下の不遇の人々まで力になってその代償を求めず、又催促もせず、他人に語らず、たとえ裏切られても決して恨まず、愚痴一ついわなかったことは仲々出来ることではありません。この数年健康がすぐれず、昨年二月隅田川畔の同愛病院に入院した時、五月頃私はお見舞に伺いました。大変喜んでジットまばたきもせず私の顔を見つめたまま楽しんでました。病院生活で淋しかったのでしょう。私は疲労すると悪いと辞そうとしましたが、帰さず心ならずも永居したことが最後のお別れになったので感慨無量です。

長瀬さんの最も仲の良かった奥川老、岡山の久保さんに先立たれたことはどんなにか淋しかったことでしょう。恐らく今は天国でお三人で軟式庭球の将来の発展と思ひ出を語り合っているように思われてなりません。

最後に尽きせぬ故人の思ひ出は限りなくありますが、長瀬さんの今更ながら立派な人であったことと、よき指導者を失った悲しみと感謝の気持が入り込んであります。

「宏徳院泰心隆法居士」となりましてお靈に謹しんでご冥福を祈り追悼の辞といたします。

(財)日本軟式庭球連盟副会長)

## 皇后賜杯獲得記念メダルを

前にして

熊谷 初江

私が長瀬ゴム工業株式会社に入社したのは昭和二十九年四月で退社が三十五年一月でした。その間の四年半はテニスに明け、テニスに暮れた生活といえました。当時の女子選手は関和さんと二人で、一年後に加藤さんと小柳さんが入社し、その後も年々新しい人が入られ、退社の時迄には九人の女子選手と十人の男子選手が互いにテニスにうちこむことが出来、長瀬ゴムNワングラブの全盛期といえたかもしれません。

その間、社長さんをはじめ皆様のご厚意により恵まれた環境の中でテニスに専念でき、悔いのない選手生活を送れたことはとても幸せなことでした。

社長さんは、全日本大会はもとより、都の大会に至るまで、ほとんどの大会にこられ、物心両面の応援を下さいました。「調子はどうかね」というこの言葉は、コートでお会いした時、いつも笑顔でいわれる言葉でした。勝った試合よりも、負けた試合が多かったにもかかわらず、社長さんからおこごとをいただいた事は、ただの一度もなかった様に記憶しております。

# 事務局報告

事務局 桑 沢 謙 吉

を本会の会員は主として墨東地区内に於て  
ゴム製品の製造販売を業とする工場事業所  
の経営者を以て会員とする。

第八条 二 品質の改善、技術の向上を  
計るため技術部会を持つ を

品質の改善、技術の向上を計るため、技術  
委員会を持つ

三 企業の健全育成と不測の損  
害を防止するため経営部会を持つ を

経営上有益なる知識の研鑽と情報の交換を  
図るため経営経済委員会を持つ

四 業界の情勢交換とその研究  
のため経済部会を持つ を

従業員の福祉増進を目的とする諸事業を通  
じて労使の健全な協調を図るため、福祉厚  
生委員会を持つ

第十五条 本会の定期総会は毎年四月、  
十月に開く 臨時総会は必要に応じ会長招  
集し、随時開催する を

本会の定期総会は、毎年四月に開く 臨時  
総会は必要に応じ会長招集し、随時開催す  
ると改正する

五二、四、七 常任理事会 於 三笠会館  
出席者 ヒノデワシ 右川ゴム 東京ゴ  
ム 八幡ゴム 金星ゴム 長瀬  
ゴム

総会に対する予算 行事予定の審議

理事会を三時三十分より 総会を四時三  
十分より、五時より六時迄の一時間 経済  
評論家の高島登氏の講演とする  
見学旅行会は富士観光に依頼中 見学先は  
サントリー山梨ワイナリー

五二、四、二一 総会 於 大和田  
参加者 二四社

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、鶴岡ゴ  
ム、田中ゴム、城東製作所、富岡調帯、長  
瀬ゴム、水留ゴム、東伸ゴム、八幡ゴム、  
福岡製作所、金星ゴム、堀川ゴム、日興ゴ

ム、堀田ゴム、シバタ、滝野ゴム、芦沢ゴ  
ム、東和製作所、協伸ゴム、上進ゴム、マ  
スミゴム、七洋ゴム

役員改選 長瀬ゴム工業株式会社 長瀬二  
郎氏が会長となり、中川ゴム、ヒノデワシ  
が副会長、右川ゴムが庶務部長、常任理事  
に東京ゴム、富岡調帯、鶴岡ゴム、山崎化  
学、田中ゴム、八幡ゴム、日興ゴム、堀川  
ゴム、金星ゴム、城東製作所の十社

理事シバタ、ダブルスターゴム、東伸ゴ  
ム、鯉淵ゴム、福岡製作所、青木エボナイ  
ト、滝野ゴム、堀田ゴムの八社が選出され  
相談役に水留ゴムとなり、規約一部改正は  
第四条 本会の会員は主として、東京都  
墨田区内に於てゴム製品の製造販売を業と  
する工場事業所の経営者を以て会員とする。

五二、五、一九 三木会 於 三笠会館

出席者  
ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、鶴岡ゴ  
ム、富岡調帯、山崎化学、八幡ゴム、水留  
ゴム、城東製作所、堀川ゴム、滝野ゴム、  
堀田ゴム、東和製作所、常盤ゴム

講師 金子秀男氏  
演題 天然ゴムの再発見

五二、六、二 理事会 於 三笠会館  
出席者 十五社

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、田中ゴ  
ム、富岡調帯、鶴岡ゴム、八幡ゴム、山崎  
化学、城東製作所、日興ゴム、堀川ゴム、  
東伸ゴム、鯉淵ゴム、堀田ゴム、滝野ゴム  
年間事業について

七月の三木会 天野公義氏の講演 八月の  
三木会 ビヤパーティー 九月の三木会は  
福祉関係の講演 十月の三木会は技術、十  
一月の三木会は経営、十二月は忘年会、一  
月は新年宴会で経営関係の講演、二月は福  
祉、三月は技術関係の講演と定め、各委員  
会長に講師の斡旋方を依頼する。

五二、六、十一・十二両日

サントリー山梨ワイナリー 見学旅行会  
出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴ  
ム、富岡調帯、鶴岡ゴム、日興ゴム、七洋  
ゴム、八幡ゴム、東伸ゴム、堀田ゴム、三  
洋ゴム、常盤ゴム、堀川ゴム、マスミゴム、  
共和ゴム、ダブルスターゴム、十七社

長瀬ゴム工業株式会社 七、三〇出 石川P  
A八、四〇一八、五五 笹子ドライブイン  
一〇、〇五一一〇、二〇 サントリーワイ  
ナリー着一二、〇〇 約一時間四十分見学  
と昼食 一三、四五出 一五、四〇一一  
六、二〇恵林寺 石和ホテルかげつに一七、  
〇〇着

九、〇〇ホテル発 九、四〇一一〇、一〇  
河口湖 富士スバルライン 富士五合目一  
一、〇〇一一一、二〇 一三、一〇朝霧高  
原昼食一四、一〇発 富士一〇 一五、一  
〇愛鷹PA一五、二五 一六、四〇海老名  
SA一七、〇〇発 一八、三〇着解散

五二、七、二一 三木会 於 三笠会館

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴ  
ム、八幡ゴム、富岡調帯、田中ゴム、日興  
ゴム、堀川ゴム、城東製作所、堀田ゴム、  
東伸ゴム、常盤ゴム、鶴岡ゴム 十四社

講師 天野公義氏  
演題 この不況はいつ脱却できるか

五二、七、三 午前五時二十分  
堀田中ゴム製作所社長夫人 死去  
七、五 六時一八時 通夜

六 一時一二時 告別式  
本会より 花環を贈る  
五二、六、二三  
株式会社 東都ゴム製作所が  
東都ゴム工業株式会社 と社名変更  
代表取締役 久松 賢氏

五二、八、四 理事会 於 三笠会館  
出席者  
右川ゴム、東京ゴム、富岡調帯、八幡ゴム、  
城東製作所、堀川ゴム、堀田ゴム、七社  
グループ保険に関して、東都ゴム工業会  
の塚田氏と第一生命より山崎、田中、小寺

三氏により説明があり後、福祉厚生部より九月の三木会の講師等に就いて、城東製作所社長より報告があり一任となる

表彰の件 委員会で立案 役員会にかけ決定したい 会報の件 編集委員会を招集原稿を集める事が主目 集める事に努力

八月の三木会 錦糸町のロッテに於てビヤパーティーと決定

東京都足立区綾瀬七一二一三七

有限会社 森田ゴム工業所

五二、五、三一 入会申込 新入会員となる

五二、八、一八 三木会 於 ロッテ会館

出席者 十社 雨天のため中止

五二、九、一六 三木会 於 三笠会館

出席者

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、田中ゴム、鶴岡ゴム、城東製作所、堀川ゴム、滝野ゴム、堀田ゴム、森田ゴム 十社

講師 極東レジン協社長 飯野謹二氏

演題 人の使い方

新入会員 森田ゴム代表者 森田一三氏を

紹介と挨拶がある

五二、一〇、七 常任理事会 於三笠会館

出席者 ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、鶴岡ゴム、田中ゴム、八幡ゴム、城東製作所、七社

一、福祉、表彰の件

二、十月の三木会講師の都合で五時とする

三、会報の件 原稿の依頼

四、会員相互の親睦に関する件

五、忘年会を反省会とし第三木曜に行う

六、二月の三木会 いすゞ自動車藤沢工場

見学の件 再度交渉を依頼

五二、一〇、二〇 三木会 於三笠会館

出席者 十五社

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、富岡調帯、田中ゴム、堀川ゴム、八幡

ゴム、東伸ゴム、堀田ゴム、城東製作所、

滝野ゴム、森田ゴム、マスマシゴム、東武

ムセンター

講師 藤原竹雄氏

演題 アイデアについて

五二、一〇、二六

菅谷、斉藤両副会長、右川庶務部長、富岡、田中両常任理事の五氏 同愛病院に会長を見舞う

五二、一〇、二七

午前五時二分 長瀬泰吉会長 死去

一〇、二八 通夜

二九 告別式

五二、一一、一八 三木会 於 三笠会館

出席者 十四社

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京

ゴム、水留ゴム、富岡調帯、田中ゴム、八幡

ゴム、城東製作所、滝野ゴム、堀川ゴム、

常盤ゴム、東武ゴムセンター、堀田ゴム、

森田ゴム

講師 学習院大学 島野卓爾氏

演題 欧米ゴム中小企業と日本ゴム中小

企業の比較について

五二、一一、一 常任理事会 於三笠会館

出席者 十社

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、富岡調

帯、田中ゴム、鶴岡ゴム、山崎化学、日興

ゴム、城東製作所、堀川ゴム

菅谷副会長より 一月二十九日 長瀬ゴム

工業協に斉藤副会長、右川庶務部長と共に

長瀬ゴム社長と四者会談にて 長瀬ゴム社

長の本会々長就任の了承を得たと報告があ

った。

会費増額の件 五〇%アップとするも 七、

〇〇〇円は一万とし総会で計る。

三木会の会費は、十二月より一、五〇〇円

とする。忘年会は反省会とし、一二月一五

日 六時 会費三、〇〇〇円 ホテルマタ

イを会場と決定 月会費集金の件は中央信

用金庫の協力を求め、振り込み制とする

新年宴会は遠慮し、一月十九日の三木会に

花見氏の講演を予定 二月の三木会は、い

すゞ工場見学のため、税務懇談会は三月の

三木会としたい 等々を協議した。

五二、一一、一五 反省会於ホテルマタイ

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京

ゴム、富岡調帯、田中ゴム、山崎化学、鶴岡

ゴム、鯉淵ゴム、日興ゴム、堀川ゴム、滝

野ゴム、七洋ゴム、堀田ゴム、ダブルスタ

ーゴム、東和製作所、大協ゴム、三洋ゴム、

シバタ、城東製作所 二十社

右川庶務部長開会の辞 菅谷副会長より

会長選出の経過報告があり、前会長に対し

て感謝状と共に記念品の贈呈 新会長の挨拶

後 宴会にうつる

五三、一、一九 三木会 於 三笠会館

出席者 十九社

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京

ゴム、富岡調帯、田中ゴム、鶴岡ゴム、水留

ゴム、八幡ゴム、堀川ゴム、城東製作所、

鯉淵ゴム、マスマシゴム、金星ゴム、大協

ゴム、日興ゴム、堀田ゴム、森田ゴム、ダ

ブルスターゴム

講師 花見正樹氏

演題 占いを基とした会社経営法

講演に先だって、会長より長い間の不況、

今迄生きぬいてきました会員の皆様方と共に

これからも会を通じて頑張ってゆきたい

と存じます と挨拶

五三、二、二 常任理事会 於 三笠会館

出席者

ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、富岡調

帯、鶴岡ゴム、八幡ゴム、日興ゴム、堀川

ゴム、城東製作所 九社

三月二日 常任理事会の折り 来年度の

予算の件につき協議したい

二月一六日の工場見学は いすゞ自動車

藤沢工場と決定

五三、二、一六 三木会いすゞ自動車見学

参加者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京

ゴム、田中ゴム、八幡ゴム、堀川ゴム、城東

製作所、東伸ゴム、大協ゴム、三洋ゴム、

太田ゴム、共和ゴム、シバタ、堀田ゴム、

協伸ゴム、富岡調帯、森田ゴム 十八社

国鉄神田駅九時三十分集合 藤沢駅経由

長後一時九分着 駅前古久家にて昼食、

一時いすゞより差回しの車にて一時五分工

場着、一時三十分より二時四三分迄工場見

学 三時一三分より三時四五分迄説明 質

疑応答 四時終了 長後駅にて解散となる

五三、二、二七 常任理事会 於三笠会館

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、富岡調帯、東京ゴム、田中ゴム、八幡ゴム 七社

総会に関する件 会費値上げに関する件

総会 四月二〇日 四時理事会 五時一六

時講演 六時より総会 会場は大和田

会費値上げ案

現行 改正(案)

一九名以下 一、〇〇〇円 二、〇〇〇円  
二〇名以上 一、五〇〇円 三、〇〇〇円  
五〇名以上 二、五〇〇円 五、〇〇〇円  
一〇〇名以上 四、〇〇〇円 八、〇〇〇円  
二〇〇名以上 七、〇〇〇円 一

三木会 三月一六日 講師 河内英治氏

演題 管理者の在り方

見学旅行会 五月一三、一四両日 大内商

店須賀川工場見学 会津若松

五三、三、一六 三木会 於 三笠会館

出席者

長瀬ゴム、ヒノデワシ、右川ゴム、東京ゴム、富岡調帯、八幡ゴム、東伸ゴム、堀川ゴム、城東製作所、堀田ゴム、常盤ゴム、

大協ゴム、マスマミゴム、森田ゴム、一四社

講師 河内英治氏

演題 管理者の在り方について



## 「景気のいい話」

前自治大臣 天野 公義

この頃「財布の時代」という言葉が流行しました。石油ショック以来の不景気つづきだが、その間に色々な変化が出て来たようだ。そして、その事業・企業の大きさよりもその内容は、と改めて問われた。私はこの耳で聞いた不況下の中小企業者の景気のいい話を書いてみよう。

三月下旬頃、ある会合で東京料飲組合の大幹部と隣合せて席についた。この組合には料亭から喫茶店、キャバレーまで入っている。「どの業界が景気がいいですか」と聞いてみると、「一番いいのはおそば屋さんでしょう。今や三食のうちの一つになっていますからね。次はおすし屋さんですね。少し余裕があって手軽なおいしいものを食べようとすれば、おすしということになるでしょう」ということであった。私の友人の浅草雷門のそばにあるおそば屋さんは、このお正月開店以来の新記録をつくったようだ。ますます忙しいようである。勿論非常に美味しいおそばであることはいうまでもない。

ある雑誌で、景気が悪いとお腹にたまるお菓子が売れる。石油

ショック以来お米や小麦を原料にしたお腹にたまる菓子が売れているのでグリコが利益を増大し、明治、森永と利益面で差をつけている。と書かれてあった。

私の後援者で「あんこ玉」をつくっている方にお会いした時、この雑誌の話をしたら、その方は「うちのあんこ玉は景気が悪いと売れるのです。景気がいいと親がお菓子を買って子供に与えるが、景気が悪いと子供に小遣いを与える。小遣いをもらった子供はお腹にたまる甘い菓子を買い傾向があるのです」といわれた。

このお正月、桐ダンス組合の方々とお目にかかった。「景気はどうですか」と聞いたら「私達は長い間不況にあったので、業界も整理され、技術者も少なくなった。しかし、ここ四、五年来いわずに中小企業の独占事業のようになって不景気知らずです」ということです。

光線を利用して、その光を物体が横切った時、ブザーが鳴る警報器をつくり、ビルの駐車場の出入口や工場の扉につける仕事をしている私の友人がいる。いい仕事なのだが石油ショックまでは仲々苦しかったようだ。三月中旬頃久しぶりに会ったら「省力化時代になったせいがお蔭様で仕事も増え、今年初めて配当も出来るようになりました」と言っていてにこにこしていた。

独特の技術開発でリングル容器を開発した社長は「私達の技術開発迄は、臨終のときりリングルを使えなかったが、私達が容器を開発して以来、いつでもリングルを使うことが出来るようになって

# ポツプス

中村俊彦

り、海外にも技術を売っているので、お蔭様でうちは」と言われる。医療に大きく寄与しながら、正に不景気知らずである。

三年ばかり前に独立した知人の小建築会社の社長は、無類の親切者で働き者である。建築業界不況の中でも、いつも忙しく走り廻っている。どんな小さな改造でも、補強でも嫌な顔一つせずやってくれるから大きな仕事も、あれならあと安心だから、と仕事をくれるようになるのだろう。「それにしても、今大工さんが足りなくて」とこぼしていた。大工さんという技術者が少くなり、高い賃金になっている。桐タンスの技術者と同様、手に職を持っている人の強い時代になってきたのではないだろうか。

マクロで見れば、不況がつづいている。月間千件以上の倒産が十六ヶ月も続いている。いつ不況から脱出出来るかが日本経済の最大の課題になっている。その時、不況下において景気の良い話は必ず参考になる点が多い。

消費生活と密着した業界、その中でも良い品、美味しいもの、腹にたまるものは特にいい。技術を基礎にし、独占に近いものは一番いい。人件費の高い時代なので省力化に寄与するものはいい。同じ業種でも体質改善を早くやった日立が、東芝に大きく差をつけたように、ミクロの面で見ると業界間の差と共に業界内での差が出て来ている。色々考えさせられることの多い時代である。

他の予定でギッシリですが、夜の時間は空いているので、それは夫々の地で何か種々の本物を——誰しも考える事ですが——

ニューヨークで、ニューヨーク・フィル、博物館、そしてミュージカルを。ボストンで美術館（この浮世絵のコレクションは、世界的なものです）そしてポップスを。ニューオーリンズでジャズ（アル・ハートなんかいいですね）を。クリーブランド、シカゴでシンフォニーを。メキシコではメキシカン。ロスでロス響を……等々大変悠張った事を考えました。そこで一緒に行くコンダクターの人にこの話をして、切符の手配等を頼んだのですが、「日本で予約をとると高いものにつくし、また夫々の時間等もはっきりしないから」と言われ、それじゃ現地へ行ってから出来る限り当って見よう、という事にしました。

アメリカ第一歩のニューヨークでは、なるほどニューヨーク・フィルの切符もミュージカル「ヘアー」の切符も手に入りません。プレミアム付きでやっとオフブロード・ウェイの「オオ・カルカッタ・カルカッタ」の切符が入手出来たと言う次第でした。

ニュー・ヘブンを朝の十時頃に発ったバスが、小雨模様のボストンへ着いたのは、午後二時頃でした。ボストン・スタラヒル・ホテルに入って荷を解き、早速フロントへ行って Where（これはアメリカ各地のホテルのフロントに必ず置いてある、その土地の案内書で、ビジネスや観光等に重宝なブックレットです）を見ました。しかし流石にポップスだけの週間スケジュール表が、週別

ビートルズ——イギリスの若者（もう年令的には若者とは言えませんが）四人のアーティスト達……残念ながら、グループは解散してしまいましたが、その世界に及ぼした影響は、絶大なものがあります。

そのビートルズのナンバーに「イエスタデイ」というのがありますが、私はこの曲が好きで、彼等の数多いレパートリーの中でも、名曲に入るものと思っています。そして、この曲には私なりに楽しい想い出があります。

この曲は、一九六五年に作曲されたのだそうですが、ラヂオ・レコード等で折に触れ聞いている内に、ある時、アーサー・フィードラー率いる所の、ボストン・ポップスのそれを聞いたのです。その壮大な演奏と、その壮大さの中にこの曲の秘める哀愁のイメージが浮彫りにされており、そのアレンジの素晴らしさと共にすっかり魅了されてしまいました。

さて、そうこうしているうちに、偶然な事からアメリカに行く事になりました。そのスケジュールを見ますと、ニューヨーク、ボストン、クリーブランド、シカゴ、ニューオーリンズ、メキシコ、ロス等々を歴訪する様になっているのです。日中は見学その

に置いてありました。それを見ますと、残念ながら御大アーサー・フィードラーのタクトはこの週にはありませんでしたが、当夜のポップス・コンサートのプログラムに「イエスタデイ」が載っているのです。「しめた！」というわけです。早速同行のK君、O君、T君に話すとは是非一緒に……という事になりました。

まだ大分時間があるので、街に散歩がてら見物に出かけました。このボストンは、学都と言われるだけあって、落着いた街並です。ホテルから少し離れた所には華僑の強靱さを象徴するかの様に、中華街があり、所を得たり顔の中国系の人達の顔が見られました。夕食後、三君と出かけました。聞いてみると、コンサート・ホールはホテルのすぐ近くでした。欧米のこういう演奏会は、決った都市では毎晩あるのですが、開演時間は夕食を済ませてからゆっくり聞ける様にか、或いは所謂 Audit time とでも言うのでしょうか、日本よりはる大分遅く、大約午後八時か、八時半頃から始まるのです。

外に出ると、雨は霽れていました。ホテルの前の道路工事の所の水溜りをよけながら空を見ると、東京で見るとは大きな星が光っていました。その向うの方に大きな建物が動々と立ち、その屋根の上に Pops と大きな赤い灯がともっています。

正面入口の巾広い階段を上った所に、チケット売場があります。良い席は、大半が予約との事でしたが、一階のうしろの方に席があるというので、テーブル・シートを求めました。四ドル五十セ

ントです。(この料金は、月々金曜が四ドルで、土・日曜は五十セント高くなります。この日は土曜日だったのです) 当時はドルが公定で三百六十円でしたから日本円で一、六二十円だったわけで、世界的な演奏がこの様に安い料金で聞けるのですから全く羨ましい限りです。昨今ですと料金がそのままとして千円前後というわけです。

一階はこの四ドル五十セントの他は、前の方へ行くに従って五ドル、五ドル五十セントとなるのですが、いずれもテーブル・シートといって、丸いテーブルにその四本の脚に折畳式の椅子が夫々チェーンでつないであるのです。

入口のロビーには、ドレス等で着飾った婦人が夫々のペアの男性とつれ立って賑やかに談笑しながら開幕を待っており、いかにも楽しそうです。我々の様なムックケキヤロー四人組なんてのは見当りません。ホールの中に入ると、眩めいばかりの明りの、広い、高い天井の、丁度学校の体育館の様な建物ですが、内装は立派なものです。私共の席は、正面舞台に向かって後の方へ三分の二位の左側から三列目位でした。

丸いテーブルの間を通過して、番号を照合して座り、回りを見廻すと外人ばかり(当り前の話)です。けれど、五・六列前の方に黒髪の東洋人らしき男性の姿が見られました。その内に、右隣りの席にも男女四人づれがやってきました。

この夜は、ポストン・ウエルズレイ・カレッジのクラブ・ナイトコンサートという事でパンフレットには、その催しの為の募金

フランスだか判りませんものね。——日本人だと言うと、カップルの一人がさもありません…… という顔付きで、ペラペラ始めたのには…… これは大変だ、もさる事をがアセっちゃって…… ただ顔を見つめるだけです。すると向うも—— 納得—— という顔になって、今度はゆっくりとまるで単語を並べる様な話し方をして来ました。そうなれば落着きも出て、こちらは四人なんですから、何とかなる訳で、言葉やジェスチャーやら、前後のやり取りやら、しまいにナブキン・ペーパーで筆談と相成る次第：となりました。

その人たちは、一組は夫婦、一組は恋人同志でいずれも四十代の明るい感じの又、見ていると本当に楽しそうなカップルで、ポストンから四十マイル(約六十キロ位)程の所から車で、この音楽会を聞きにやって来たとの事でした。—— それに、どうもこのポストン・ウエルズレイ・カレッジのOB、OGの様でした。それに夫婦づれの夫の方は以前日本に来た事があるらしく、ヨコハマの事を話しますが、こちらには良くわからない、所々判る部分で相槌を打つ、というわけです。—— この音楽会は、楽しいか? エンジョイしていますか? 雰囲気はどうか? 等々、我々の気持にとても気を使ってくれます。それと、我々がどういう職業なのか、音楽関係の者なのかどうか、盛んに聞くのです。音楽関係ではない、ただ聞きに来たのだ、というと非常に喜んで(彼等がこのポップスを大変誇りにしている——)そして、それを認められた事に対して)特に日本からポストン・ポップス

があつたらしく、ミス…… とか、ミスター…… とかの名がズラリと三十人位書いてあります。また他の頁には、ポップス・ワインリスト、ポップス・メニューとかが書いてあります。

間もなく演奏は、ハリー・ジョン・ブラウンのタクトで、かの有名なラデッキー行進曲から始まりました。それから、四々五曲の演奏があつて休憩となります。約三十分位だったでしょう。その間に前記のメニューの註文の品(演奏が始まる少し前にキッチンとした服装の若い人が礼儀正しく註文を聞きに来るのです)を持って来ます。そしてガヤガヤします。(日本の幕合、中入という所でしょうか、ただ違うのはその場のテーブルで飲み食いし、話に花が咲くのです)

先程の、私共より後から座った隣席の人達が、私共が話をしているのを聞いていて、チラチラ横目で見ていましたが、やがてニコシしながら話しかけて来ました。(サアテ困っちゃった、ゼンゼン何を言っているのかわからないのです)そこで、少しは話の出来る? T君に助け舟を求めたのですが、彼の「エーゴ?」と極端なブロークン(ドモリ?)で片言もよい所。(もつとも、それまでの間、用が足りて来たんですから、私よりは良いノ、という程度なのです)

先づ、アッパジメは、ジャバニーズ? チャイニーズ? から、これは大底どこでもこういう話から始まったものでした。どうも連中には見分け難いらしいですね。もつとも、我々にしてからが、言葉なんかでも聞かなければ、アメリカだか、イギリスだか、

を聞きに(ポップスのイエスタデイの話が曲りなりにも判ったと見えて)来たという、外人特有の大きなジェスチャーで、サンキュー、サンキューと言ひ、(まわりの人達が振り返る位)それからは音楽談義—— といつても、身振り手振りですが—— 今日の指揮者は将来非常に有望であるとか、今夜のソリストはポップスとの協演は今日が初めてだが、これも又大変優秀である(このあたりジェスチャーが大振り)あなた方は良い日に来てラッキーズ…… 等、本当に彼等のエンジョイという意味がわかる思いでした。それからブロークンをやり取りをしている内に第二部が始まりました。

第二部は彼等が賞讃するソリスト、ジャネット・バックカー(ヴァイオリン)の演奏する「ウィーンの森の物語」から始まりました。成程と納得する音色でした。

さて、お目当てのイエスタデイはやっぱり当夜のメイン・イベントの様で終りから二番目でした。(ラストナンバーは何だったか忘れましたがアンコール風でした)流石本場の本物、初めの部分のトランベットのソロ、そして大きく盛り上げる音、そして静まる細かい、惜いまでのアレレンジ。フィナーレの鐘の音。ピートルズが好きだというフィードラーの良い理解が行き届いた、という感じでした。それは聞き入っている聴衆皆のものだったのでしょう。足を踏みならす喝采ぶりでした。ポップスを聞きに行つた甲斐がありました。

演奏会が終つて二組のカップルと固い握手を交し、外へ出て何

か身が軽くなった気分でした。  
その夜はベッドに入ってからも天井に、壁に、窓に、そしてすぐそばの空間にもイエスタデイのメロディーが漂っていました。

あとがき

昨年一月に六十一号をお届けしてから、一年余、あれよあれよという間に過ぎてしまいました。長瀬会長の御他界は墨東ゴム工業会にとって大きな衝撃であった。

会報が出ないので、墨東ゴム工業会の存在が世間にうすらいでしまったように思われる向きもあるが、少くとも三木会を中心とする一年間の行事は今までにない中味の濃いものであった。ほとんど毎回、外部の講師を招き、それぞれ有意義な話を伺い、又いすゞ自動車見学、サントリーワイナリー見学等充実した一年だった。

長瀬二郎会長、菅谷副会長、桑沢事務局長の息の合ったコンビをとりまく役員ของทีมワークで前会長の足跡の大きさにもめげず、更に会の躍進を願って六十二号をお届けする。

(右川記)

墨東ゴム工業会・会報

第六十二号

(第16巻 第2号)

昭和五十三年四月二十日 印刷  
昭和五十三年五月一日 発行

発行人 長瀬二郎

編集人 墨東ゴム工業会編集委員会

発行所 東京都墨田区墨田二丁目三五十六号  
(長瀬ゴム工業内)

墨東ゴム工業会

制作 東京都墨田区八広六丁目五八十七

詢うぬまプリント

すぐれた技術 すぐれた製品 川口化学の薬品

<p><b>アクセル (加硫促進剤)</b> BUR, BZ, CZ, D, DM, DS, EUR, EZ, F, LUR, M, MH, MP, MX-1, MX-2, MX-K, MZ, NS, PP, PX, PZ, SDD, SED, SMB, TBT, TET, TL, TMT, TP, TRA, TS, 22.</p>	<p><b>アンテージ (老化防止剤)</b> AW, BHT, BOUR, CP, D, DAH, DBH, DP, DP-1, DP-2, F, クリスタル, MB, NBC, OD, RC, RD, 3C, SP, TNP, W-200, W-300, W-400, W-500, WT-100, XP-100,</p>	<p><b>アクター (加硫剤)</b> CL, DB, DQ, Q, R, グリーン (未加硫硬化剤) DC <b>ペプター (シヤク解剤)</b> S <b>オゾガード (き裂防止剤)</b> F, MC <b>エクストン (加工助剤)</b> K1</p>
---	---	---

**川口化学工業株式会社**  
本社 〒101 東京都千代田区外神田2丁目14番10号  
電話 東京 (255) 8481 (大代表) (広瀬ビル6階)

**ゴム薬品・合成ゴム**  
ショウ・ブラック ニテロン  
昭和電工製 日鉄化学工業製  
ステアリン酸 ニブシールVN-3  
日本油脂製 日本シリカ工業製

**株式会社 小菅商会**  
東京都墨田区東向島二丁目三十三番地二号  
電話 (六三三) 〇三一一〜〇三二五

伸栄商事株式会社

生ゴム 合成ゴム  
ラテックス 輸入販売

代表取締役 安田武夫

東京都中央区日本橋茅場町三丁目五番  
電話 (六六九) 七四八一番 (代表)

生ゴム ☆ 合成ゴム  
護 護 栄 株 式 会 社

東京都墨田区八広1-3-2  
電話 (614) 1176・1177

加工性の優れた ファーネスカーボン

天然・合成ゴム用補強剤

# 旭カーボン

# 白艶華

- #80 (ISAF)      #55 (GPF)
- #70 (HAF)      #50 (SRF)
- #60 (FEF)      #35 (SRF-LM)

CC  
DD  
U  
E  
A  
AA  
O

クレー，ホワイトカーボン類

バーゲス #30クレー    クラウンクレー  
 国産ハードクレー    トクシール  
 ソーレックス          珪石粉

合成ゴム粘着剤用石油樹脂

## PETOLITE

軟化点(°C)120, 110, 100, 80

キシレン樹脂，プロセスオイル

紫外線吸収剤，繊維粉，顔料

白石カルシウム株式会社

TEL 03-241-1321代



白石工業株式会社

# カルモス

有機ゴム薬品

加硫促進剤	ノクセラー
老化防止剤	ノクラック
加硫剤	バルノック
スコーチ防止剤	スコノック
日光電裂防止剤	サンノック
シャク解剤	ノクタイザー
タッキファイヤー	クマロンCL

高分子用添加剤

安定剤 ノクライザー

その他

化学工業薬品

有機写真薬品  
農業用薬劑  
医薬

古河化学工業株式会社製品  
古河ホリブテン

三菱石油株式会社製品  
三菱プロセス油

大内新興化学工業株式会社製品 一手発売元

# 合資会社 大内齊茂商店

東京都中央区日本橋小舟町1丁目3番-7 (662) 6451 (大代表)

支店 大阪市北区梅ヶ枝町72 (電子会館) 電話 大阪 (364) 2116 (代表)



ツバメ印

各種ゴムサブ製造販売

# 日本サブ化工株式会社

本社 東京都台東区松ガ谷4-9-6 電話 (841) 1095

工場 東京都墨田区東墨田2-11-12 電話 (611) 1852

HAFカーボン新製品!!

旭 #70 (HAF)

#80 (ISAF)

従来の販売製品

旭 #60 (FEF)

旭 #55 (GPF)

旭 #50 (SRF)

旭 #35 (SRF-LM)

旭×C-550 (電導性カーボン)

カタログ進呈 旭カーボン株式会社

株式会社

# 成岡商店

東京都台東区浅草2-3-61

電話 (848) 6911~7



ゴム・ビニール・電線  
 配合用薬品・工業薬品  
 発泡剤・樹脂合成樹脂  
 顔料・油脂・塗料

# 丸正興業株式会社

本社 東京都荒川区荒川3丁目12番16号

〒116 TEL東京 (806) 5611 (代表) 6号

大阪営業所 大阪市北区東寺町10番地

〒530 TEL大阪 (351) 4904~5番